

に。ユニバーサルデザイン社会の実現に向け、精

力的に活動を続けていく。
日記は、書く真かう

車いすの暴れん坊

米倉さん自叙伝初回

世界一のエニ・ハーベル
デザイン社会の表現を目指して活動している米倉仁さん（ヘルプマイトグループ代表取締役社長、NPO法人自立支援センターおおいた会長）が自叙伝「車いすの隠れん坊」を出版。19日夜、ヒットパレードクラブで祝賀会が開かれた。

米倉さんは1961年福岡市生まれ、若い頃は不良でやんちゃもじた

な
2歳の時は交通事故で頸椎を損傷し、車いす生活に。1991年に有限会社ヘルプメイトグループを立ち上げ、介護用品の販売やイベント企画を行ひ、2002年にはNPO法人自立支援センターをおいたの理事長

がい煮がおかれている現状についても伝えられねば」と出版への思いを話した。

に。ユニバーサルデザイン社会の実現に向け、積極的に活動を続けていく。

自叙伝は、若い頃から車いす生活になったことで、ユニバーサルデザインのアパートを造ったり障がい者の自立・介護制度の問題点、今後の夢など米倉さんの思いがつまっている。「いじめられたり、不良になったり障がい者になったり、いろんな人生を経験した中

祝賀会の呼びかけ人を代表して、菅健一さんが「パリアフリーのコンサルタントをやりたいと知り合った当時から言っていた。自分の夢を実現しながら、みんなの障がいについても訴え、思いを実現してきたなと思う。次は何をするのかと思う」とあいさつ。長野恭紳市長も「障がいがないに関わらず、社会への自立の扉をここを開けて戦ってきたとあったが、

その通りにやつてきた人。これからも役割は変わらないと思う。誰もがド肝をぬかれることをやつてほしい」とエールを送り、広瀬勝良知事がらのメッセージも紹介された。

その後も多くの仲間がメッセージを送り、盛り上がった。自叙伝は四六判200ページ、1,240円（税別）。全国の書店で発売されている。



多くの仲間に囲まれてあいさつをする米倉さん(中央)

ヒットパレードクラブで
祝賀会が開かれた。

はNPO法人自立支援センターおおいたの理事長

人柄を表すように幅広い職種の人があつた。

状についても伝えられれば」と田舎への思いを話した。

祝賀会の呼びかけ人を代表して、菅健一さんが「パリアフリーのコンサルタントをやりたいと知り合った当時から語っていた。自分の夢を実現しながら、みんなの障がいについても訴え、思いを実現してきたなと思う。次は何をするのかと思ふ」といさつ。長野恭絵市長も「障がいがある人に関わらず、社会への自立の扉をじに開けて戦ってきたとあったが、

その通りにやつてきた人。これからも役割は変わらないと思う。誰もがド肝をぬかれることをやつてほしい」とエールを送り、広瀬勝貞知事からのメッセージも紹介された。

その後も多くの仲間がメッセージを送り、盛り上がった。自叙伝は四六判200ページ、1200円(税別)。全国の書店で発売されている。